

私たちの活動や意見を
仲間で共有します
会費は県と日本平和委
員会の活動も支えます

土浦平和の会ニュース

発行：土浦平和の会
事務局：土浦市鳥山2-530-
296
ホームページ://heiwatuturia.
web.fc2.com/

土浦共同センターが1500筆突破 あと2か月、3千万署名さらに！



土浦駅頭署名

森友学園問題で、前代未聞の
決裁文書改ざんが明らかになり、
強気の安倍内閣が揺れに揺れて
います。しかしながら、このよ
うな中でも、日本会議（会員38
000人、47都道府県すべてに本
部をもち、押しつけ憲法の改正、
皇室典範改正などをめざす保守
団体）国会議員懇談会に加入の
与党国会議員を中心に、「今年
こそ憲法改正を」の声を一段と
高くしています。

今国会最終盤に？

衆参両議院で、憲法改正派が
3分の2を占める今こそ、また、
天皇の世代交代儀式が行われる
前の今年こそが、改正発議・国
民投票を行うべき絶好のチャン
スと叫んでいるのです。今通常
国会の最終盤（会期末は6月20
日）もしくは秋の臨時国会が彼

らのめざす着地点です。

3000万署名は5月まで

彼らの目論見通りにはさせず、
発議をさせない状況を作り出す
ために全国で取り組んでいるの
が3000万署名です。ですから、
集約は5月末日までです。

署名の上積みをも

憲法土浦共同センターに結集
する9団体（平和の会、年金者
組合、9条の会、新婦人、民商、
保健生協、地域労連、革新懇、
共産党）がこれまでに集約した
3000万署名は、3月10日現在、
1500筆を超えた模様ですが、そ
れぞれの団体の集約目標からす
るとようやく2割から3割といっ
た段階です。残された2カ月間、

頑張って署名を上積みしまし
ょう。

3月16日(金)15時～16時
土浦駅西口ペデストリア
ンデッキで宣伝・署名

3月24日(土)10時～11時
おおつの団地「まるも」向
かいの公園駐車場集合
3000万署名行動

3月31日(土)10時～12時
DVD鑑賞と3000万署名
等の意見交流会
いばらきコープ土浦店



いのちを守れ 暮らしを守
れ フクシマと共に
さようなら原発3.21
全国集会(代々木公園)

土浦駅12時発特快
前から2両目に乗車



百里初午祭に参加

暖かい一日となった2月11日
百里平和公園で恒例の初午祭りが開催され、土浦地区から10名が参加、交流を深めました。

かすみがうら平和の会独立へ

かすみがうら市在住の本会会員7名が「かすみがうら平和の会」設立の為、転籍します。共に頑張りましょう。

不破哲三さんは「党綱領の力点」という著書でこう述べています。「未来社会における『自由の国』と『必然性の国』との関係を、階級社会における上部構造と経済的土台との関係に比べてみると、階級社会では、全体としては、

経済的土台が社会発展で主導的役割を果たすとされてきました。未来社会では、経済的土台をなす『必然性の国』ではなく、人間の力の発達が社会発展の推進力であり、その主要舞台である『自由の国』が、相互作用のなかで主導的役割を果たすことになる、と書いてよいと思います。」

ご存じのように、マルクスは経済的社会構成体という概念をつくりだすことで階級社会、とりわけ資本主義社会を分析し、社会を土台（生産関係の総体）と上部構造（土台を反映して生みだ

された見解や理論と、それにもとづいて人間がつくった組織や機関）に分け、土台を物質的社會關係、上部構造をイデオロギ的社會關係としました。そして土台における生産力と生産關係の矛盾が社会発展の原動力となる、と考えました。これは原始共産制社会から現代の資本主義社会にまでいたる人類の歴史においてつらぬかれた共通した社会発展の法則だと思えます。

一方、「未来社会では、経済的土台をなす『必然性の国』ではなく、人間の力の発達が社会発展の推進力であり、その主要舞台である『自由の国』が、相互作用のなかで主導的役割を果たすことになる、と書いてよいと思います。」と述べられています。

私は、経済的社会構成体という概念における土台と上部構造の關係から類推すれば、土台に相当するのが「必然性の国」であり、上部構造が「自由の国」にあたるのかと考えておりました。が、実は「『自由の国』『必然性の国』というとらえ方は、「人間の生活時間を二つの領域、二つの部分に分けてとらえるもので、その見地から、この二つの生活時間

の關係が未来社会でどのように変わっていくか、また、その変化と、生産力のさらなる発展との關係はどうなるかについて、考察されている」という意見があることを最近知りました。

階級社会（前史）においては、生産關係は、個々の構成員の意志から独立した客觀的・必然的な法則によって一定の生産諸關係（奴隷制・封建制等々）に入りこむ、その意味で物質的性格をもつととらえることが可能となったと考えます。他方、未来社会においては階級關係が消滅することによって、生産關係にも社会的理性が働いて、人間の意識的・合理的な統御が支配的になり、社会の合法的発展の法則に沿った運営・管理が行われるようになるといわれています。

ということは、生産關係が、自然法則はもちろん社会關係における諸法則をも統括した総合的・全面的な人間の意識的統御のもとにおかれ、経済的土台の性格が変容してくることが予想されます。その場合、自然が物質的性格をもつことは当然の前提になるわけですが、その一

方で、経済的土台のしくみを人間が全面的に意識的統御のもとに支配するということは、その物質性は消滅するということなのでしょう。

そのさい、そもそも階級社会の社会構造全体を分析するために生みだされた経済的社会構成体という概念が未来社会においてどう発展していくのか、それとも、この概念はほんらい階級社会にのみ通用するもので、本史においては、別の法則（「自由の国」が社会発展の主導的役割をはたしていく）が働くようになるのか。もし関心のある方がおられたら一緒に考えてみませんか。

（佐久間伸一）

リレー随想

「未来社会論」

について